

●丸太の木組みもダイナミックな店舗

戦後つくられた札幌軟石の倉庫を、新本店に改造。温かみのある木を使った内装と、石の素朴な風合いがマッチしている。設計は、脇坂工務店の「ネオ・デザイン住宅」プロジェクトに加わっている、若手建築家の奥村晃司さん。



ラーメン道店主 金沢道人さん夫妻

親しくなっても、お互い妥協はしない。だから、つきあっていける。そう脇坂さんのことを語る金沢さん。隣で奥さんが「二人は似た者同士」と笑う。



妥協せずにこだわり、仕事を楽しくむという似た者同士が会って

さわやかな初夏の風が薫る5月下旬、札幌の有名店「ラーメン道」が石蔵の新店をオープンさせた。店主の金沢道人さんは化学調味料を一切使わない、おいしいラーメン作りにこだわり、多くの人を魅了し続けている。ラーメンの作り手として常に真剣で、一見怖い頑固親父風にも見て取れるが、堅物ではない。「こう作ったら、もっと味が良くなるかな」と研究心に遊び心を添え、ラーメン作りを楽しんでいる。

そんな金沢さんの周りには、妥協することなくポリシーを貫き、それを大変と感じることなく仕事を楽しむ人が自然と集まってくる。その一人が脇坂工務店の社長、脇坂肇さんだ。「主人も脇坂社長も似た者同士。今ごろ気がついたんだなんて、言わせないワ」と、金沢さんの奥さんが二人を前にしてこう笑う。男同士「そ

うかなあ」と目を見合わせ、バツの悪そうな表情を見せる。

「今から7〜8年前、出会いは自宅のリフォームでした。モルタル壁にビビが入り、木の外壁にしてみたいとは思っていたけど、建築会社なんてどこも知らなくてね。当時、脇坂工務店が丘珠にあった、店舗の前のツリーにはきらきらとイルミネーションが光っていて、やけに派手だった。ぎっと、面白い会社なんだろうな」と訪ね、会ってみたらやっぱり社長も社員も面白い（笑）と金沢さん。

脇坂さんについても「いろんなことを知っていて人脈も広い。得にならないことでも、骨身を削って何かする。肩書きがどうあれ、一人の人間として魅力を感じましたね。その後、店や親の実家の工事もお願いしているんですが、しっかりと仕事をするので安心して任せられました。ウチは脇坂工務店だけ。競合する会社はありません。あつ、少しほめ過ぎか（笑）」と、目を細め笑顔で話します。

店が順調で、新たな店舗展開を考えていた金沢さんに石蔵の話が持ちかけられたのは昨年末。見た瞬間に気に入り、奥さんに「決めたから」と電話。そしてすぐ脇坂さんに「工事、やってもうから」と連絡した。あそこならこの古い石蔵を、多くを語らなくても間違いなくいい店にしてくれる。金沢さんには確信があった。確かに、打ち合わせで多くを語る必要はなかった。金沢さんが作りたい店を、長年の付き合いから十分承知していた。設計は「ネオ・デザイン住宅」というプ

ロジェクトと一緒に推進している、若手建築家の奥村晃司さん。金沢さんが追求する素材の旨みと、丸太などの「自然」な風合いが一つの共通点となって、心地よい空間づくりにつながった。

メニューに餃子を入れようという話が出ると、脇坂さんは「新作の素材に使用できないかな」と、嬉しそうにエビやカニ、シャケ、人気店の餃子まで持ってくるほどの熱の入れようだったという。果たして、これも工務店の仕事なのか？

「だってね、僕らが手掛けた店はやっぱり繁盛してほしいでしょ。道のファンだし。飾り気のないその言葉に、温かな人柄が感じられる。目立ってほしい、お客さんがどんどん来てほしいと、看板は木を使って大きな「どんぶり」の形にした。これまでも「ラーメン道」は、数々のメディアに取り上げられ、金沢さんは局のディレクターなども知っている。この夏、脇坂工務店では家を建てた後もお施主さんたちと楽しくおつきあいできるス



札幌市東区・Yさん夫妻

脇坂工務店とは10年以上のつきあい。どんな小さなことでも、家や会社の建物でトラブルが発生すると気軽に相談している。奥さんは大工の笹森さん（右ページ写真・後列右端）の大ファン。

人が人呼び、広がる家づくりの輪

Builder's Fan Club

VOL. 1

※住宅雑誌「Replan」77号より抜粋。

脇坂工務店

わきさかこうむてん



家づくりをきっかけに、深まる人間関係。「家は建ったし、見てもしょうがない」と思いながらも、オープンハウスがあれば気になって足を運ぶ。施主という以上に、そのビルダーのファンになってしまった人たち。なぜファンなのか。その言葉には、家づくりに欠かせない大事な事柄が詰まっている。

写真手前左が脇坂工務店社長・脇坂肇さん

●下宿屋ビルを道場にリフォーム

札幌市東区をはじめ、銭函や苫小牧にも道場を持ち、生徒数は300人を超える。この本部の建物は、もともと下宿屋だった5階建てのビルを買い取り、脇坂工務店がリフォームしたもの。格闘技のプロショップなどもあり、3階と4階に道場を設けている。



丈夫塾塾長・宮地政樹さん

家を建てる時、脇坂工務店をみつけてきたのは奥さんだった。宮地さん本人は、現れた脇坂さんと「アントニオ猪木」で意気投合。以来、空手道場の工事などを依頼している。



ベースとして、海を見ながらバーベキューが楽しめるゲストルーム「浜辺の家」を完成させた。ステージもある大規模なもので、脇坂ファンの集いの場。金沢さんはこの「浜辺の家」の話を局に持ちかけている。人に頼み事をするのはあまり得意ではないが、脇坂さんの裏表のない一生懸命な姿勢に、「この人のためだったら」と労をいとわず動いている。気がつけばいつの間にかやら、脇坂工務店のメディア担当重役？ そんな感じだ。

人进行、人のために建築をする。そこから建築というジャンルを超えた、人と人のつながりが生まれ、また新たに人を思いやる建築の場が生まれる。脇坂さんが仕事を楽しく理由が見えてきた。

腕のいい大工さんがいるから安心して任せられるし、つきあいも長くなる

無類の釣り好きサラリーマンといえば、映画「釣りバカ日誌」のハマちゃんだが、釣り好きが高じて会社を辞め、時間がや

格闘家と建築屋を結びつけたのは、アントニオ猪木！だった

「押忍」「オッス」。道場に入るとき、退出するとき、少年たちが元氣よく挨拶をする。今、北海道で一番勢いのある空手道場「丈夫（ますらお）塾」。各大会で、塾生が必ず上位に名を連ねる。まだ10年にも満たない新しい塾だが、選手たちの成長ぶりは著しい。塾長は脇坂さんの盟友ともいべき宮地政樹さんだ。

宮地さんは15歳のときから空手を始め、サラリーマン時代も大会に出るなど、選手としても活躍してきた。転勤のある仕



り繰りできるよう自分で会社を興してしまったのがYさんだ。特大のキングサーモンを求めアラスカへ渡ることもあり、豪放磊落な人生を送っている。

「会社を立ち上げたときは、もう無我夢中でしたよ。しかし、会社が軌道に乗れば釣りが思う存分できるんだって、それを励みに仕事に打ち込んだ。あのときは夜も寝ないで頑張ったね」と振り返る。医療器機などを扱う会社を設立して15年。その数年後に、チラシで知った脇坂工務店で会社の敷地内に融雪機を設置した。以来、10年以上のつきあいになる。

「脇坂社長と初めてお会いしたときは、誠実そうな印象を受けました。実際たいへん誠実で、いい仕事をなさる。会社を経営しているのによくわかるんですが、やはり仕事では信頼関係を築くことが重要です。私がこまめでやってこられたのも、人間関係」と、社長という同じ立場だからこそ理解できる点も多いようだ。

Yさんの長いキャリアの中には、例えば病院にCT装置を設置する場合、構造的にどうあればいいのか、また補強には鉄骨がどれくらい必要で、金額の目処はどれくらいか、という内容の仕事もある。

「よく知ってらっしゃるから、チェックは厳しいですよ。でも、反対にこれぐらいの金額がかかって当然というご判断もいただき、ただ安く安くとはおっしゃいません」と脇坂さん。

「脇坂工務店より見積もりが安いところはいくらでもあります。でも、どんな工事をされるか心配です。その点、脇坂さ



事だったが、10年ほど前、出身地の札幌で家を建てようと思ったのが脇坂工務店との出会い。宮地さんと脇坂さんは、会った瞬間から血が騒ぎ「ウマが合う」とピンとくるやいなや、家のことよりも燃える闘魂・アントニオ猪木の話で大盛り上がり。世の中そんなこともあるのだ。

格闘家として雄々しく生きる宮地さんに転機が訪れる。会社がリストラを発表し、リストラをする側の辛い役回りに。「オレも辞めるから、お前たちも辞めろ」とすっぱり会社を辞め「サラリーマンで終わるばかりが人生じゃなし」と、平成11年に札幌市豊平区平岸に道場を開いた。そのとき工事にあたったのが、猪木つながりの脇坂工務店だった。

とはいえ、猪木だけで深いつながりは生まれない。宮地さんは、脇坂さんの一本筋の通った生き方、男の目から見て男らしいと感じる潔さ、そんな人間性を見抜いていた。一方の脇坂さんも、宮地さ

んなら安心です。自宅の水まわりもお願いしたいけれど、笹森さんという大工さんにとても良く作ってもらい、ウチの奥さんなんて脇坂工務店というより、すっかり笹森ファン（笑）。日頃の仕事を振り見て、息子さん家族も脇坂工務店で新築中。設計は若手建築家の遠藤崇能さんだ。話は変わるが、Yさんの釣果は周囲も目を見張るほど。多い日はホッケ60尾前後ということもある。釣った魚は自分でさばいて社員に配り、打ち合わせに来た脇坂工務店の社員にも「持ってきなさいよ」と氣さくに渡す。そんな関係もずいぶん続いている。

一代で会社を築き、大きくしてきたYさんだけに、世の酸いも甘いもよく知り、人や会社を見る目は非常に厳しい。そんなYさんが「脇坂工務店にファンが多いのも納得だ」といふのは言わない言葉を発表すると、脇坂さんは照れ隠し、目をしばしばさせ、しきりに頭をかいた。



んの生き方に惚れ込み、応援していこうと「後援会長やらせていただきます」と自ら手を上げた。現在、銭函社屋の2階は「丈夫塾銭函支部道場」になっている。

家づくりの打ち合わせは休日に行われることが多い。しかし日曜日に試合があれば、審判員の資格を引っさげ丈夫塾後援会長として、迷わず会場へ。時には本州の遠征にもついて行く。それでも「大丈夫、ウチの社員は優秀だから」と涼しい顔。社員たちを信じているのだ。

子どもたちに対しても温かな眼差しを向け、心身ともに健やかに育ってほしい、くじけることなく大きな夢を掴んでほしいと願う。そのためにも後援会長として塾を盛り立てていこう。世話好きなおじさんの顔がちよつと覗く。もっとも、そんな脇坂さんの人柄に触れ、父母たちからの仕事や紹介も多い。ここでも人の輪が、広がっている。

宮地さんは、「丈夫塾」が短期間で強くなった理由をこう分析する。「指導者が子どもたち一人ひとりに情熱を傾ければ、子どもたちも。よし、頑張ろう！」と情熱を持って稽古に励む。結果、いい成績につながる。先輩の活躍ぶりも後輩にはいい目標になります」と。そして、同じことが脇坂工務店にもいえるという。「社長が人を育てながら頑張っている仕事を、いい会社になる。そんな会社のファンになって、応援したくなる人たちの気持ちもわかります。宮地さんは最後に、そう結んでくれた。

バーベキューのスナップ写真／脇坂工務店提供

●（有）脇坂工務店

施主、建築家、工務店がコラボレートする「ネオ・デザイン住宅」に取り組む。一般住宅、店舗設計はもちろん、格闘技用リングの施工まで幅広くこなしている。

フリーダイヤル 0120-711-525
URL <http://www.wakisaka-EO.com>

※住宅雑誌「Replan」77号より抜粋。

若手建築家たちが設計、脇坂工務店が施工した事例。
右から奥村晃司さん設計の「家族が集うスローハウス」
飯岡哲司さん設計の「敷地38坪・6人家族の住まい」
鈴木理さん設計の「電車通りの家」

